

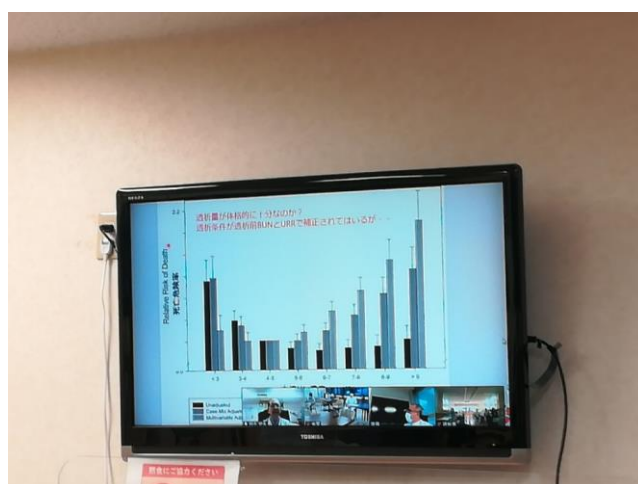
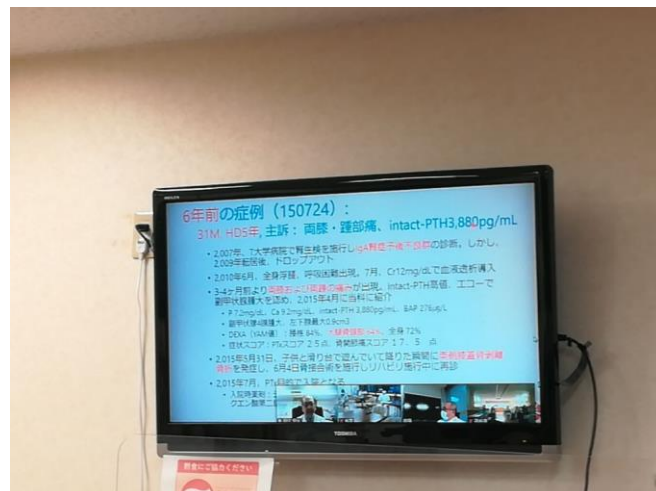
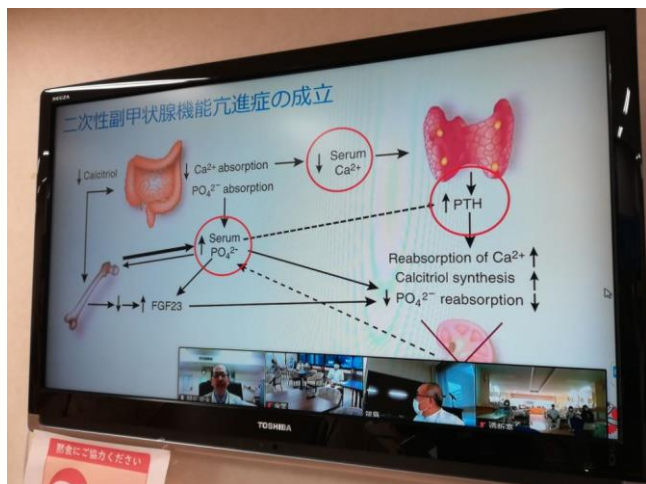
# 教育研修会

日時：R3 年 12 月 14 日（火） 17 時 00 分から 17 時 40 分

場所：新王子病院 4F 会議室A・4F 食堂・HD 室

症例：S 氏 カルシウム受容体作動薬抵抗性二次性副甲状腺機能亢進症による PTX 治療

講師：済生会八幡総合病院 腎センター主任部長 安永親生先生



透析症例の重大な合併症である二次性副甲状腺機能亢進症はレグパラやパーサビブなどの骨回転の薬剤が登場したことによって PTX が一時的に減ってきたかと思われましたが、近年はレグパラ抵抗性の症例も増えてきているとのこと。その背景には高リン血症・高 Ca 血症といった日頃の管理が十分に行えていないことなどが原因と考えられます。これらのことは、データー上では異常な数値を確認することができますが、すぐに自覚症状としては現れないことからなかなか説明しても患者に理解されづらいことが現状です。しかし今回の講義では、P の正常・P の摂取量は生命予後に対して、栄養・食事の管理や十分な HD を行うことがコントロールを図っていく上でとても大切なことであることを学び、これからは私たちが患者により分かりやすく採血データーの異常など説明できるよう学習して行きたいと思います。